

機動戦士ガンダム外伝 《黒の戦士達》

さみ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

宇宙世紀0079年、後に一年戦争と呼ばれるジオン独立戦争の中、歴史には刻まれなかった戦いがいくつもあった。その一つ、『漆黑戦役』について解説していく。

時系列は一年戦争後半〜テラーズ・フリード事件前半までの4年間を描いており、主な舞台はサイド7及び周辺宙域および地球。

目次

第1話	1
episodiel 『幻影と白雪』	
『サイド7、再び』	6

第1話

連邦軍の基地『ジャブロー』に置ける戦闘の同時期。

既に放棄されていたサイド7で新たな戦いの予兆が走る

連邦軍非正規部隊『フアントム』と

ジオン公国軍特務隊『スノーホワイト』の

歴史に刻まれない戦いが始まる。

登場人物（オリジナル）：

「地球連邦軍直属特殊部隊「フアントム」

隊長：ライア・イーグルス

隊員：ミゲル・アシャス、サリス・マールシャ、ガイ・ステインガー、アリサ・リス

テイア

「ジオン公国軍破壊工作部隊「スノーホワイト」

隊長：ミシエル・ロビダス

隊員：ステイブ・ペン、ゲイズ・ロツツア、アーシャ・フォー、クリード・ドレテイ

アツク

主な登場兵器：

「地球連邦軍直属特殊部隊「フアントム」」

RG M—79 FP B ジム・フアントム

R X—78—F フアントムガンダム

L 『R X—78—F Z X デスフアントムガンダム』

R X—77—2 「F」フアントムキャノン

R X—75—F N フアントムタンク

R G M—79 F N C フアントムストライカー

R G M—79 S P F フアントムスナイパーII

ジオン公国軍破壊工作部隊「スノーホワイト」

M S—07 B—3 グフ・カスタム（ミシエル・ロビダス専用機）

M S—08 T X イフリード・カスタム（ステイブ・ペン専用機）

M S M—07 E ズゴックE（ゲイズ・ロツア専用機）

M S—09 ドム及びM S—09 R リック・ドム（アーシャ・フォー専用機）

M S—06 F Z ザクII改（クリード・ドレテイアツク専用機）

オリ主紹介（一部）

ライア・イーグルス

イメージCV：入野自由

連邦軍直属の特殊部隊『ファントム』の隊長。21歳。男性。連邦軍の士官学校を主席で卒業。第09部隊の隊長を勤めた後、高官に交渉を持ちかけて特殊部隊『ファントム』を立ち上げた。格闘が得意と言っているが、戦績を見ると射撃の方が成績が良い。若さ故か無茶をする時が多いが持ち前の運の良さで切り抜けている。冷静な性格だが、調子がいいとやや熱血になる。

主な搭乗機：

RGM-79FPB ジム・ファントム

RX-78-F ファントムガンダム

RX-78-FZX デスファントムガンダム

ミゲル・アシャス

イメージCV：大塚明夫

『ファントム』の副隊長を勤める年配の男。41歳。ライアの補助にもなっている他、隊員達を諭すなど風貌からは見られない優しさを持つ。ファントムに配属された理由は上官の命令を無視した上、ジム数機を無駄死にさせた事。本人はそれを悔やんでいる。遠距離が得意な為、彼のジム・ファントムはカスタマイズされている。

主な搭乗機：

RGM―79FPB ジム・フアントム

RX―77―2「F」 フアントムキャノン

その他：RGM―79SPF フアントムスナイパーII

サリス・マールシャ

イメージCV：井上喜久子

『フアントム』の女性隊員。21歳。肝つ玉の座った女性だが優しい気持ちの持ち主。だが芯は強い。バズーカ等の兵器が好きなたため、彼女のジム・フアントムは支援仕様。ライアに好意を抱いているが中々口には出さない。

主な搭乗機：

RGM―79FPB ジム・フアントム

RX―75―FN フアントムタンク

ガイ・ステインガー

イメージCV：中村悠一

『フアントム』の男性隊員。22歳。かつてジオン軍に所属していた軍人の一人。連邦に投降した後、ライアから誘いを受けてフアントムに入隊した。活発でマイペース。近接戦闘が得意で、自身のジム・フアントムは近接用にカスタマイズされている

主な搭乗機：

R G M | 7 9 F P B
R G M | 7 9 F N C

ジム・ファントム
ファントムストライカー

e p i s o d e 1 『幻影と白雪』

『サイド7、再び』

サイド7。

一年戦争当時、地球近傍の宇宙空間の大半は緒戦の1週間戦争でほぼジオンの制圧下におかれ、ルナツーの守備範囲内にあるこのサイドのみが連邦軍の勢力下にあった。表向きは疎開地のような扱いをされており、住民は老人や子供の比率が高い。

そのような環境を隠れ蓑とし、ここにV作戦により開発されるモビルスーツの性能試験等を行う施設が極秘に建造される。そして、宇宙世紀0079年9月18日にホワイトベースがモビルスーツの受領のため入港した時、シャア率いる偵察部隊との間で史上初めてのモビルスーツ同士の戦いがコロニー内で展開された。その時コロニーシリンダーに被った甚大なダメージにより、住民の生存者はホワイトベースに避難。コロニーは放棄されることとなる。

放棄されたサイド7をジオンに奪われる事を懸念した連邦軍はとある部隊を派遣。その部隊の名はファントム。連邦軍直属の非正規の特殊部隊であった。

「まあ……こんな無法地帯の探索の為に派遣されるとはな」

特殊部隊フアントムのリーダー、ライア・イーグルスはポツリと呟いた。

こんな辺境に流しておいて何もする事が無い。所謂、憂鬱というやつである。

「しかしだな、ライア君。元ジオン兵の私からすればここはジオンが狙いそうな場所だ。連邦もここを放棄したが修理はされている。狙われるのも当然だろう？」

この元ジオン兵と名乗っているのはガイ・ステインガー。階級は軍曹である。元々はジオン公国に無理矢理パイロットにされたのが嫌で連邦軍に投降した奴。

でも無罪になって釈放された為、このように連邦軍へと転機した。元々センスが良い為かみるみると階級を上げて行つた。

「ガイさんよオ、俺はこんなノホホンとする為に士官学校卒業した訳じゃねーんだぜ？」
ライアは告げた。こんな放棄されたところでゆつくりと宇宙食を食べる様な生活はもう懲り懲りだ。そう言つた直後だつた

《サイド7宙域に敵影発見！出撃をお願いします！》

基地内にそう警報が流れた。ライアは驚きの顔のまま走り出す。

RGM-79FPB ジム・フアントムのコクピットへと飛び込む。

ジム・フアントムはこの特殊部隊フアントム用にカスタマイズされたジム・ストライカーで、後にビーム・トンファーと呼ばれるものを両腕に装備し

黒く塗装され、宇宙空間で幻影の様に動く事から名付けられた。
魔改造ジムとは少し違ったりするのだが。

「ライア・イーグルス、ジム・ファントム、行くぞっ!!」